

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名：健康貯金のための運動誘発 AI 基盤構築
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加期間終了時点）

研究代表者

杉浦 裕太（慶應義塾大学理工学部情報工学科 准教授）

主たる共同研究者

多田 充徳（産業技術総合研究所人工知能研究センター 研究チーム長）

清野 諭（東京都健康長寿医療センター研究所 研究員）

藤田 浩二（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 講師）

橋本 悠希（国立大学法人筑波大学システム情報系 助教）

奥野 洋子（都築電気株式会社コーポレート企画統括部経営企画室）

3. 事後評価結果

○評点：

| |
|---------|
| A 優れている |
|---------|

○総合評価コメント：

本研究課題は、健康行動の誘発に寄与するインタラクティブ技術の構築を目的として研究が行われた。その結果、生活者の知覚を生じさせないレベルでの健康状態の計測と、健康行動変容が可能なインプリシットインタラクション技術を組み込んだモバイル端末アプリケーションを開発し、多感覚提示技術によって意識下での運動行動変容を実現した。また、ソーシャルコミュニケーションの導入により健康行動が促進されることを明らかにし、これを支援する健康貯金プラットフォームの構築を行うなどの成果も挙げた。PRISM 事業の事業方針変更等により、研究期間を5年から2年8ヶ月に短縮としたことを受けて再設定された目標は、期間内に達成したと考えられる。

構築した健康貯金プラットフォームが企業での運用が開始されたことや全国団体への無償での利用環境の提供が予定されていることなど普及に向けて活発な活動が行われたことについても評価出来る。

本研究にて開発・検証された各技術が統合された健康貯金プラットフォームの構築に向け、グランドデザインを描く必要はあるが、健康貯金のための運動誘発 AI という発想は超高齢化社会を迎える我が国にとって有効な施策になりえるものであり、研究の更なる発展と社会展開を期待したい。

（2021年9月追記）

本課題は、新型コロナウイルスの影響を受け、6ヶ月間期間を延長し、遅延していた被験者実験やデータセットの蓄積・データ解析や姿勢チェックや運動記録が可能なプラットフォームの構築と運用の公開に向けた準備を行った。

その結果、大腿部への微弱振動刺激により、膝関節の運動精度を向上させる手法を新たに提案・検証し、その有効性を確認した。また、本研究において開発した「スマートライフチャレンジ」システムをパッケージ化して公開し、企業・団体に対して無償での利用環境提供を開始した。延長により、今後のイノベーションにも繋がる新たな研究成果が得られたのみならず、研究成果の一部が社会実装され、申込・届け出があった企業・団体にて利用されている等の成果が得られており、期間延長における目標は達成したと考える。